

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 26 章 6～13 節>
今日と来週、イエス様の死の意味について、聖書から聞いていきましょう。

①高価な香油をイエス様に注ぎかけた理由をなぜ記さないのか？

いよいよ十字架の死に向かわれるイエス様について記した 26 章です。その最初が高価な香油をイエス様に注ぎかけた女の話です。その値は労働者のほぼ年収にあたりました (マルコ 14:5)。しかし、不思議なことに、なぜ女がこのようなことをしたのかについてマタイは一切触れていません。ということは、私たちが本当に目を向けるべきは別の所にあるのです！

②弟子たちの問題は何か？ 結局、イエス様を値踏みしているのでは？！

すぐ前の 25 章で、イエス様は困っている人々に手を差し伸べることの大切さを語られました (25:35-40)。とすると、弟子たちがここで、「無駄使いをせずにもっと有効に使えたのに」と言っていること自体が間違いだとは言えません。でも、何か変な気がします。イエス様が軽くあしらわれているような気がするのです。イエス様と他の何かを比較してどちらを取るかを考えて、イエス様でない方を選んで、そんな気がするのです。それが写りつかかるのでしょうか。

③この時の弟子たちが知らないことを今の私たちは知っている。それは何か？

しかし、私たちはこの時の弟子たちを責めることはできません。弟子たちはこの後に待つ主イエスの死と復活、そして、そのことが持つ意味を、この時はまだ分かっていなかったからです。しかし、今の私たちは違えます。イエス様は神様が私たちが救うために与えて下さった大事なお方であることを知っているからです。「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、私たちが生きようになるためです。」(ヨハネの手紙 I 4:9)。

④最も小さい者に手を差し伸べる業が否定されているのではない！。しかし…

この箇所間違っではならないことが一つあります。この時は、歴史の中で後にも先にもただ一度、神の独り子が死に向かわれた大事な時でした。一方、「貧しい人々はいつもあなたと共にいる」(11)と主は言われています。これは、困窮している人々のためにいつも手を差し伸べなさい、と言われているのと同義です (25:40)。命をかけてヒットラーに立ち向かったボンヘッフアーは、イエス様の恵みを「高価な恵み」と語り、「自分のためではなく、世のための教会」と訴えました。キリストの大切さと世の人々に仕えること、そのどちらもよく分かっていたのです。私たち一人一人も、私たちの教会も、こうありたいと思います。